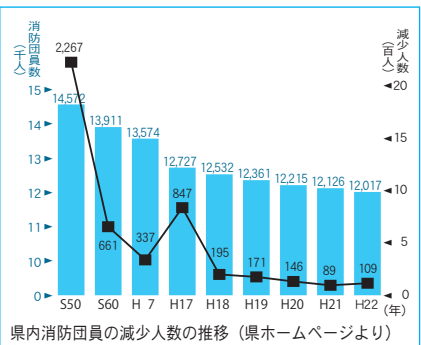




若いチカラが消防団には必要です

県内消防団員の減少人数の推移

消防団と消防署は違います。常勤の地方公務員として消防署に勤務する消防職員と異なり、消防団員は、ふだん仕事をしながら火災や大規模災害発生時に、自宅や職場から災害現場などへ駆けつける非常勤特別職の地方公務員なのです。地域に密着した消防団員。全国的にも減少傾向にあります。かつては自営業者が中心となって団員が構成されていましたが、現在は会社員や公務員など「サラリーマン化」が進んでいます。しかし、現状はサラリーマンの参加なしに、消防団活動も成り立たなくなっています。県内でみても消防団員数は、年々減少傾向にあります。



地域のチカラ

邑楽消防団

地域の人たちのチカラで成り立っている消防団。団員たちは、ふだん仕事をしながら、「自分のまちには、自分たちのチカラで守りたい」という気持ちで活動している。

消防団とは、その地域に住んでいる人たちによって構成される市町村の消防機関です。それぞれの仕事を持ちながら、活動している団員たちは、その職種もさまざま。ひとたび火災や災害が発生すれば、職場や家庭などから駆けつけ、専門職の消防署員と連携し、消火活動や救助活動などを行います。地域のことをよく知っている消防団員は、自分の家の近くのどこに消火栓や防

火水槽があるかなど把握しているので、火災が発生した際には、いち早くそこに駆けつけ、消防署の車両に送水することができま。地域に密着していればこそ、できることです。しかし、現在消防団員は、全国的にも減少傾向にあると言われています。地域の若者が入団してくれないことや、ライフスタイルが昔と比べて変化していることも原因なのかもしれません。



ORAMACHI VOLUNTEER FIRE CORPS

守らなければならない大切な人たちが、このまちにはいる。だから、いざという時チカラになれる。



SWITCH 消防団

一人の消防団員として

消防団活動のことを、分かってもらえる人には分かってもらえと思う

自分が消防団に入団したのは、平成8年4月のことでした。地元の先輩に誘われたのがきっかけで入団。家業の板金加工業をしながら活動しています。入団して初めての出勤のとき、火災現場で何をしようか分からず、ただ先輩団員の動きを見ていただけでした。あのときから今年で16年目。自分も後輩団員を指導する立場となり、「初期行動の迅速さ」が、火災のいち早い終息につながることを実感しています。ですから、地元の水利(消火栓・防火水槽)を熟知することが何より大切。消火栓図表を確認しながら消防車両を、素早く水利へ向かわせることが理想です。



邑楽消防団 第1分団第3班 【平成8年入団】

小川 隆さん (谷中蛭沼・11区)
Ogawa Takashi

私にとって消防団とは、自分の生まれ育った地域に少しでも恩返しすることのできる場所だと思う。要は、自分の住んでいるところをどれだけ好きになれるかです。



消防車の操作は団員にとって必須です。火災現場で操作できなくては放水できません



地域の人たちからなる消防団。ふだんその活動は、あまり知られていない。東日本震災では、避難活動中に命を落とした地元消防団員もいるという。家族、そして地域の人たちを守るために。消防団の使命とはいったい何なのか。そして、ボランティアでありながら、命の危険すらある火災現場に赴く団員の思いとは。今回の特集では、邑楽消防団にスポットを当て、所属する団員のインタビューも交えながら、地域のチカラ「消防団」に迫る。

写真 邑楽消防団 第1分団第1班【平成22年入団】
増田圭介さん(横町化楽・3区)

INTERVIEW





インタビュー—私たちは、チカラになれる

消防団員の横顔

仕事を持ちながら活動している消防団員
その原動力とは。そして消防団の魅力とは。



総員 121 人のチカラが集結するとき



邑楽消防団の構成

邑楽消防団は、館林地区消防組合に所属し、現在その構成は3分団12班、団員数121人から成り立っています。火災時はもちろんのこと、台風やゲリラ豪雨などのときなどは、水防団としても活動します。また、ポンプ操法競技大会や町総合防災訓練(2年に1度)、秋季节検や歳末警戒、出初式、予防消防活動など、その活動範囲は多岐にわたります。

◀ 邑楽消防団の構成表

分団	班	管轄している地区	団員数
第1分団	第1班	横町化染、上下西宿、光善寺、新中野、明野	11
	第2班	下中野、前谷東原、前瀬戸宿、千原田向地、鶴上、鶴下、鶴新田	11
	第3班	前原、天王元宿、十三坊塚、大根村琵琶首、谷中蛭沼	12
第2分団	第1班	藤川	8
	第2班	一本木、渋沼	8
	第3班	秋妻	9
	第4班	石打、住谷崎	9
第3分団	第1班	西ノ根宮内中島、馬場大林、寺中	9
	第2班	坪谷	8
	第3班	水立大黒、十三軒、十軒	9
	第4班	店高原、本郷江原	9
	第5班	古家、大谷端宿赤東、開拓	9

邑楽消防団 第3分団第1班

【平成14年入団】
Ogino Masami
岡島克美さん(西ノ根宮内中島・24区)



「自分は今何ができるか」を心掛け、火災の時に動ける消防団を目指したい。

会社を退職し、家業を継ぐために実家に戻って来たところを同級生に誘われて入団しました。「自分は今何ができるか」を心掛け、消防団活動を頑張っています。防災訓練や秋季节検、ポンプ操法など消防の行事があるときは、家族が見に来てくれたこともあり、何より家族の理解があるから続けられるのだと、改めて思います。消防団に入団して今年で9年目、公私共に仲間も増え、仕事上のつながりも増えました。「輪が広がる」いい関係が築けていると思います。

でも、自分は自営業なので、屋間の火災時に出勤すると、その分仕事が遅れることも…。やはり屋間の火災時の人員確保が課題だと思います。各班の定員数が決まっている中で、詰め所から消防車両を出すには、最低2人の団員がいなければ出勤できないことになっているからです。火災時に動ける消防団でなければ本当に意味がないので、班同士を統合して1つの班の団員数を増やしてほしいという意見もあります。消防車両の台数は減るかも知れませんが、屋間に出動できる確率は、ぐっと増えるはず。サラリーマンの団員が多くなっている中で、こうした考え方も出てきています。



災害時に動ける消防団になるために

邑楽消防団 第2分団第2班

【平成18年入団】
Yoshida Kazumasa
吉田一成さん(一本木・18区)



亡き父が教えてくれたことが、消防団に入団して分かったような気がします。

亡き父が消防団に入団して地域に貢献しろと、口癖のように言っていたのを今でも覚えています。小学生のときから団員として地域で活動する父の後姿を見ながら育った自分は、地元消防団に何の疑問もなく入団。消防団は、年齢も職種も違う人たちがいるので、そこでいろいろな話を聞くことができ、自分にとって勉強になることばかり。

何より社会人になって職場以外の仲間ができるのは、とても貴重です。地区の行事にも参加しやすくなると思うからです。それに仕事から農家の人たちと接する機会も多いので、自分の担当した農家のかたが消防団員だと、仕事しやすいですね。改めて人と人とのつながり合いの大切さを実感することができます。今考えてみると、地域の人たちとの交流を大切にしろということ、父は言いたかったのでは…。だから、自分にとって消防団は、地元愛を表現する場だと、今では考えています。

東日本大震災では、最後まで住民の人たちを逃がそうとして津波に飲み込まれ、命を落とされた地元消防団員の皆さんがいるという話を聞きます。自分も身が引き締まる思いです。



消防団員としての使命の源、それは郷土愛

邑楽消防団 第3分団第4班

【平成18年入団】
Yokoyama Masahiro
横山達仁さん(店高原・28区)



災害はもとより、日ごろから地域の人に頼られる消防団であり続けたいです。

消防団には平成18年4月、先輩の紹介で入団しました。初出勤で消防車に乗っているときは怖くて足が震えていたのを覚えています。火災現場に到着しても、何をしようか分からず、先輩の消火活動を、ただ見ているしかありませんでした。

現在、入団して5年目。職場の人たちの理解もあり、昼間の火災にも出勤できています。3月11日に起こった東日本大震災では、震災の当日、担当地区の被害状況を確認しに行きました。そこで地元の人に温かい声を掛けていただいたときは、消防団は頼られる存在なんだと実感できました。だから、自分が少しでも地域の役に立っていると思うと、今では入団してよかったと思います。消防のきびきびとした動きも仕事に生かしています。肥料を担ぐときは、消防のホースを担ぐような感じといった要領です。

自分の班は、ポンプ操法競技大会で連覇も果たしている優勝常連班。優勝して当たり前という伝統が班にはあります。プレッシャーもありますが、5月から始まった練習では、一生懸命頑張っています。大会当日は、何より地域の人たちに見ていただきたいですね。



伝統をつなぎ続けるプレッシャー

新入団員の声

地域でつながりができた



第2分団第3班
高野敏幸さん Kazunori Takano
(秋妻・17区)

娘の小学校のPTA活動で知り合った団員に誘われたのがきっかけで、今年入団しました。地域の活動などで団員とは一緒にすることも多くなるので、入団をきっかけに知り合いが増え、新たな横のつながりが広がっていくことは今後プラスになると思います。それに秋妻地区では、団員が毎年クリスマス時期になると「消防サンタ」になり子どもたちにプレゼントをしています。先輩たちが築いてきたこうした取り組みを、自分もぜひ続けていきたいです。

退団者の声

大切な仲間ができた



元第1分団第2班
関谷正明さん Masaki Sekiya
(千原田向地・9区)

平成5年に入団して以来、あっという間の18年間。今年4月に退団することになり今は感慨無量です。自分は消防団が大好きでした。自分の居場所がそこにはあったし、地域に貢献できるという誇りがあったからです。それと苦楽を共にした大切な仲間と消防団で出会えたことが、何より自分の財産になったからです。家族からは、「本当に辞めちゃうの」と聞かれましたが、引き際は肝心。後輩団員たちが、地域のために頑張ってくれることを願っています。

特集

消 SW TCH 団



男達の熱き闘いが今始まる。



邑楽の消防魂ここに見参

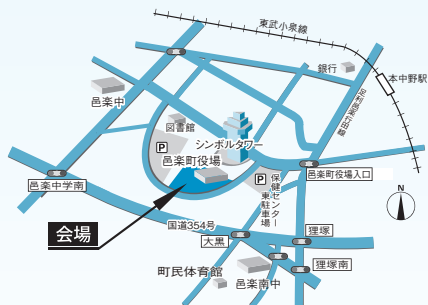
第38回

邑楽消防団ポンプ操法競技大会

期日 7月10日⑧ (雨天決行)

時間 午前8時30分操法開始

会場 役場庁舎南側駐車場



■主催 館林地区消防組合邑楽消防団 ■問合せ 邑楽消防署 ☎ 88-5551

特集 SWITZ 消防団

日ごろの練習の成果を披露する
ポンプ操法競技大会とは？

ポンプ操法競技大会は、館林地区消防組合管内で、毎年行われている大会です。消防団員ならば、一度は選手として参加した経験もあると思います。

ポンプ操法競技大会とは、消防団員が火災現場で使用する機械器具などの基本的な取り扱いと、ポンプ車(消防車両)などの操作方法の習得を目指し、団員が火災現場で対応できる体制の確立を目的としている大会なのです。

簡単に言うと、いかに迅速、的確に火に見立てた標的(火志)を放水で倒すかということになります。出場選手は各班から5人。指揮者(全体の指揮や号令をかける)・1番員(1回目の放水を行う)・2番員(2回目の放水を行う)・3番員(放水命令などの伝令)・4番員(消防車の操作)です。大会には、邑楽消防団3分団12班が出場します。各地区の消防団員の雄姿、そして訓練の成果を、ぜひご覧になってみてはいかがでしょうか。

訓練のチカラ



TOP INTERVIEW
団長の手 邑楽消防団 団長

丸木信一さん

消防団は団長の「手」にかかっている。邑楽消防団の団長として団員を率い、121人の総指揮を執る丸木信一さんに聞く。

消防団はいざという時チカラになれる。だから、地域に貢献しているんだという誇りを団員には持ってほしい。

—ポンプ操法競技大会は、競技性が高まりすぎて本来の技術習得につながっていないのでは？
丸木 大会は、ホースの延長から始まり消防車両の取り扱いまで、機械器具の基本的知識を身につけるきっかけになるものです。火災現場では、火を目の前にして誰も教える余裕はありません。ですから、こうした技術が学べるポンプ操法競技大会は、重要性があると考えます。大会では、日ごろの練習成果を各班が披露します。住民の皆さんに、ぜひ見てほしいですね。

—団長の考える消防団とは？
丸木 「自分たちのまちは、自分たちで守る」それが消防団だと考えます。東日本大震災で津波から住民を逃がそうと、最後まで警鐘を鳴らし続け、津波に飲み込まれて命を落とした地元消防団員もいると聞きます。ですから、地域を災害から守っているのだという誇りや気概を持つことが、消防団の子カラの原動力にほかならないと思います。

—新入団員の確保が、どこの班でも苦勞していると聞きますが？
丸木 原因のひとつに現役団員自体の高年齢化が進み、若い世代の人たちを地区内でも知らないといったケースがあります。ですから、区長さんにも協力していただきながら、班同士の情報交換なども広げて、団員確保につなげてほしいと考えます。

—以前は、自営のかたが多いと言われていた消防団。現在の構成は？
丸木 現在、邑楽消防団は121人。その内、会社員は88人にもなっており、自営業者はわずか8人です。昼間の火災時は、町外で働いている団員は、現場に駆けつけられない場合もあると思います。邑楽消防団には家族従業者、団体職員や役場職員のかたがいるので、まだ助かっている部分はありますね。



MARUKI SHINICHI 1964年生まれ。消防団へは昭和63年に入団。分団長や副団長を歴任し、平成21年に団長に就任する。新中野在住、46歳